

エ. せきができてから

村の人々は、あれ地をどんどん切り開いて田を作り、いつか60ヘクタールもの田が豊かに村々をかこむようになりました。

円蔵さんは、せきが完成した次の年の1884年、大きなことをなすとげた喜びをむねにひめてなくなりました。

村の人々は、円蔵さんの恩をいつまでも忘れないように、村の神社のけいだいに、石ひを立てて感謝しました。

▼円蔵をたたえる石ひ



▼円蔵せきができるまで (年表)

年	おもなことから
1859年 (江戸時代のおわり)	○古いせきが大水でこわされ、新しくせきを作りたいという声が村の人々から出る。
1862年	○弓田円蔵を中心にせき作りの計画が話し合われる。
1863年	○せき作りの工事が始まる。
1866年	○4年目に大水でせきがこわれる。
1870年 (明治3年)	○8年目に八幡橋の所まで水を引く。 ○せきを深く、じょうぶにする工事が始まる。
1883年 (明治16年)	○21年かかってせきが完成する。
1884年 (明治17年)	○弓田円蔵がなくなる。